

2022.7.17

性教育フォーラム「恋の病以外は予防できる」活動報告

はじめに

愛知サマーセミナーの場を借りて性教育フォーラムを開催しました。

児童自立支援施設「玉野川学園」で嘱託職員を経て、平成20年から現在まで瀬戸少年院にて法務省専門職法務教官として、第一線の現場職員として勤務していらっしゃる沼田好司先生を講師としてお招きして約80分間お話しいただきました。沼田先生は平成26年の少年院法改訂に伴い実施されることとなった特定生活指導「性非行防止指導」を現在に至るまで担当し、これまでに、100名以上の性非行少年の処遇をグループワーク等で実施している。

また、「性非行防止指導」の処遇方法をヒントに、外国籍少年に対する「多文化共生プログラム」を開発・実施し、研究や広報活動に取り組んでいらっしゃいます。今回の講演では、「瀬戸少年院が挑む性犯罪再犯ゼロへの挑戦！」をテーマに性暴力に関して加害者側にフォーカスを当てて、性犯罪をなくすために大切と思われること等についてお話しいただきました。以下に、沼田好司先生の講演内容をまとめます。

自己紹介から始まり、少年院に入所することたちの特徴や最近の変化、どんな内容の性暴力で入所しているかをお話しいただきました。そして、性非行防止指導で行っている内容、特に配慮している点、外国籍の子どもたちの特徴や支援の際に困難と考える点、等をわかりやすくお話しいただきました。

そして、性暴力・性犯罪シンポジウムでは、愛知・思春期研究会の共同代表である中谷豊実がコーディネーターを務め、夜の大歓楽街と真ん中の公園で様々な困難を抱える若年女性をサポートするために奮闘している「街角保健室☆ケアリングカフェ」の1難関の活動における成果と課題を共同代表の丹羽咲江と報告後、性暴力と性犯罪に関してパネルディスカッションを開催しました。

沼田先生の講演では多数の質問が寄せられましたが、時間内にお答えできなかったものの、お返事をいただきましたので掲載させていただきます。

先日は、御清聴ありがとうございました。私にとって、とても貴重な場となり、様々な御意見や御質問を頂けたことで大きな刺激を受け、今後性非行防止指導に対して自己研鑽していく必要性を強く感じたところです。本当にありがとうございました。

3限の配布用紙の御質問について、僭越ですが、下記の通り回答させていただきます。明確な回答ができていない箇所も複数あると思いますが、この点は上記の通り、私自身の課題として、今後、自信を持ってお答えできるよう学びを深めていきたいと考えております。どうかご容赦下さい。

なお、当日もアナウンスさせて頂いたところですが、**今回の発表及び御質問の回答は、私一個人の主観・経験に基づいたものです。よって、公式な見解ではないこと**を御理解頂きますよう重ねてお願い申し上げます。

瀬戸少年院 法務教官 沼田好司

御質問	回答
Q 「生きづらさを抱える少年で、非行に走る少年とそうでない少年がいるが、その違いは？」	自分の強みに気付いているか、自分の強みを活かせる場があるかどうかで大きく変わってくると思います。自分の個性の活かし方が分かれば、非行以上に自分の存在価値が得られる行動を選択できると感じています。
Q 「性に興味を持ち始めた時期の少年の保護者・指導者に対する助言は？」	ごく自然なことという受容が必要と思います。過度に意識すると、子供側も過剰に反応するようになって感じます。そのような中で性は「自分を守るもの」「人を攻撃してしまうこともあるもの（武器にもなること）」という考えも緩やかに教示する必要があると思います。性にのめり込み過ぎると、自分も他者も守れなくなると伝えることも大切だと考えます。
Q 「子供を性加害者にしないために家族でできることは何か？」	「居場所作り」等、様々な言葉が出てきますが、いつでも・いつまでも子供が「甘えられる」場を家族内で構築することが必要だと思います。感情を抑圧させるほどの家庭内教育指導を行うことは、子供の生きづらさを助長させてしまうものになるように感じます。
Q 「中程度知的障害のある児	多くの性非行少年が、発達上の課題を抱えていると思います。その彼等に対して、グループワークだけではなく、

<p>童やその保護者に性教育を行う場合気を付けることは何か？」</p>	<p>非行内容が性非行以外の少年と共に、周辺プログラムの一貫として、コミュニケーション能力等を向上させるプログラムを実施しています。その1つとして「感情を言語化する」「体の使い方（目の使い方）を学ぶ」といった</p>
<p>Q「特性のある子供の性非行に対して、どのような指導や支援をしているか？」</p>	<p>ことを目的とし、資質的に不器用な面を克服できるようなプログラムも実施しています。加えて、表情や動作仕草を読み理解する力や気持ちを共有する力を高める練習や、欲求にブレーキをかける力をつけるために認知機能を高めるトレーニングを取り入れています。また、知的</p>
<p>Q「性非行者の方々の中に発達障害が疑われる場合はどれくらいあるか、どのように対応するか？」</p>	<p>障害のある児童には、曖昧な表現では理解が深まらないため、可能な限り文言を図示するなど明確な表現で伝えることでより理解を促すと考えます。プライベートゾーンを示す各種写真や図のように、何が良いのか、何が悪いのかを明確に提示することが大切と感じています。</p>
<p>Q「性被害の認識がない女子への働き掛けをどうしたら良いか？」</p>	<p>とても難しい問題だと思います。性被害等、性に関するトラウマに対して、男子よりも女子の方が、幼少期に根深い課題や問題があると感じていますが、それ以上にお答えできないのが現状です。4限にもありましたように、男女の性意識の差を含め、今後私自身が学んでいく必要があると感じております。貴重な御質問ありがとうございました。</p>
<p>Q「性非行を起こしそうな自分に気付くために大切なこと、気付いたらどうしたら良いと伝えているか？」</p>	<p>自分の言動を振り返り、その言動に至った気持ちを考えることを繰り返すことが大切だと思います。（日記の反復も有効な手立てと感じています。）また、性非行を起こそうとする自分に気が付いた時に、「なりたい自分」＝自分の価値を意識して、性非行とは違う行動が選択できるような働き掛けを行っています。</p>
<p>Q「性非行は再犯率が高いと聞か、このプログラムで傾向は変わっているか？」</p>	<p>具体的な数字については、明確に示すことはできませんが、個人的な感覚として、性非行少年に特化した様々な指導の幅や出口支援（社会内処遇）が広がっていることから、再非行防止の可能性は高まっていると感じています。</p>
<p>Q「数ヶ月で再犯する人に対してどう思うか？」</p>	<p>率直に悔しく思います。そして、申し訳なくも思います。また、そのような人等から経験を聞き、それを今後の指導に活かす必要があると強く感じます。</p>
<p>Q「地域の社会資源に求める</p>	<p>誰もが何らかの「生きづらさ」を抱えているという前提</p>

<p>こと、期待・希望することは何か？」</p>	<p>で接して頂くことが大切だと思います。「この子は問題ない」という見方をされる少年が、性非行に至ってしまうケースも多々あると感じています。</p>
<p>Q「学校教育で非行防止、性教育を行いたいが、どのような内容が良いか？」</p>	<p>性被害、性加害というのは、他の非行よりも身近なものであり、誰もがそこに関わってしまう可能性があることを前提に教示する必要があると思います。そこに関わらないために「居場所」が必要な当然のことですが、性からの「逃げ場」も同様に必要であると伝えることも大切と感じます。</p>
<p>Q「支援者を『敵』と感じる人がいるが周りはどう動く方が良いか？」</p>	<p>私も時折少年から敵対視されていると感じることがあります。そのような中で、彼等の危機的場面を共有する機会があれば、少しずつ彼等が抱く敵という認識が和らいでくるように感じています。また、上記した通り、賛否ありますが、私も彼等に自己開示し、私の危機的場面を共有してもらうように働き掛けています。</p>
<p>Q「非行事実に対して嘘をついている少年にどのようにアプローチするのか？」</p>	<p>確かに非行事実を認めらない少年はいます。その認められない背景に何があるのかという視点でアプローチすることが必要だと思います。その背景には、これまでの生活の中で「守ろうとしている」物事があるはずなので、それに着目した指導が必要だと思います。その思いが自己開示できれば、自然と非行時の行動が振り返られるケースが多いと感じています。</p>
<p>Q「言語化するには、グループワーク以外にどんなことが大切か？グループワーク中での気をつけることは何か？」</p>	<p>グループワークを行う時、私は指導者ではなく、ファシリテーターであると強く自覚しています。賛否ありますが、ファシリテーターの自己開示は、少年等の自己開示を促す有効な手立てであると感じます。また、グループメンバー一人一人の出番を確実に作る事が一番大切だと感じています。発言できる少年とそうでない少年がいますが、できない少年に対して、私だけでなく、発言できる少年からもアプローチしてもらうなどし、常にグループの凝集性を高めていくことを心掛けています。グループワーク以外の方法については、下記を参照下さい。</p>
<p>Q「どの程度時間を掛けて、本音を聞き出しているか？その方法はどのようなものか？」</p>	<p>支援者側の本音を少年が素直に聞いてくれる環境を作ることで、少年側も本音を伝えてくれるようになると思っています。また、支援者と少年との共通認識を作ることも大切だと思います。(例えば色鉛筆を準備して、今の</p>
<p>Q「加害の気持ちの部分をもど</p>	

<p>うやって引き出せば良いか？」</p>	<p>気持ちの色はどの色かをテーマに支援者・少年がそれぞれ1色を選択し、それが支援者と少年が同色になれば、共通認識が芽生えている証などといったアイスブレイクを取り入れています。)これらの繰り返しが、最終的に少年の危機的場面の本音の自己開示につながってくると思います。</p>
<p>Q 「少年院では、保護者にどのようなアプローチをしているか？」</p>	<p>性非行＝性欲異常といった考えを持っている保護者の方が多いため実情です。これらの考えに固執せず、それぞれの少年の抑圧された思いにアプローチして欲しいとお願いしています。また、性非行に限らず、非行少年は家庭内で、共通認識を持たずにいる場合が多く、家族で共通する目標・期待を一緒に作ってもらえるよう働き掛けています。(御紹介した社会復帰支援会議では、上記の色鉛筆を使用し、家族の色・少年の色・・・等々のテーマで少年、保護者にそれぞれ色を選んで貰います。最初は違う色を選択すること多いですが、相互にその色の理由などに話合うと、最終的には、選択する色が統一されるようになってきます。この結果を踏まえ、家族内の共通認識、意思疎通が強化されるように働き掛けています。)</p>
<p>Q 「学校教育においても、少年院で実施しているような『自己開示』のプログラムを取り入れることで、非行予防できると思うが、少年院側からそのような働き掛けはあるのか？」</p>	<p>広報活動は、様々な場所で実施していますが、少年院のプログラムを一般社会で活用している例について、一個人として承知していません。非行予防の視点で「自己開示」できる場を学校教育でも実施されることは期待される1つであると感じますし、今後少年矯正として、様々な地域連携等が求められている現状を踏まえると、その一助となればと感じるところです</p>
<p>Q 「講演を依頼したいがどうしたら良いか？」</p>	<p>今回も施設の許可を得て講演させて頂いております。私一人では判断できませんが、今後ご要望を頂きましたら、許可を得られるよう努めていきたと考えております。連絡については、今回主催の愛知思春期研究会の方々を通して宜しくお願い致します。ご連絡お待ちしております。</p>